

栗原市地震防災マップ

地域の危険度マップ 花山地区

宮城県沖地震(連動型)の場合

○この地域の危険度マップは、地域が揺れやすさマップ(宮城県沖地震(連動型)において示された強さ(震度)の揺れとなった場合に、地盤の液状化の影響を考慮した程度の建物被害(全壊及び半壊相当)が生じるかを100メートルメッシュ毎に詳細し、相対的に表示したものです。

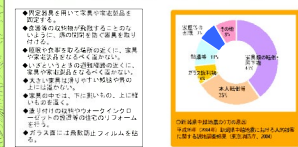
○地震の発生状況によっては、被害の状況がこれよりも大きくなったり、小さくなったりすることがあります。

○宮城県沖地震(連動型)は、1793年に宮城県沖の広い範囲で発生したと考えられ、次の宮城県沖地震でも起きる可能性があると考えられています。マグニチュード 8 を想定しています。

家具の地震対策も重要です。

■家具の対策

住宅の全体を揺れても、ガラスの鏡やタンス等の大型家具の転倒、テレビや電子レンジ等の家電製品が飛んでくるといった、日常生活には想像できない事態によって、怪我や火災の原因となることがあります。新築の家でも、地震に備えて家具の固定は必須です。新築の家でも、地震に備えて家具の固定は必須です。新築の家でも、地震に備えて家具の固定は必須です。



地域の危険度マップとは

■地域の危険度マップ

地域の危険度マップは、地震による建築物(木造)被害をその被害の程度に応じてランク別けした上で、地図に表したものです。具体的には、「揺れやすさマップ」で示した強さの揺れとなった場合に、地盤の液状化(※1)の影響を含めて、全壊(※2)程度の被害を受けると想定される建築物(木造)の割合を、「危険度」として示しています。



○地震による死亡・ケガの原因は何？

阪神大震災での死者のうちの約8割は地震直後の家具、建物による圧死といわれています。

○皆さんの生命・財産を守るためには、住宅・建築物の耐震化が極めて重要です。

建築物の耐震化が重要です。

■木造住宅の耐震診断

木造住宅の耐震性は、主に3つのチェックポイントがあるとされています。

- 建てられてから、かなりの年月が経っているか(特に昭和56年以前に建てられたものか)。
- 住宅が過去に大きな災害(地震や水害など)を経験したことがあるか。
- 住宅の構造、形、備った大きな窓が何人あるなど、耐震に関わる基本的な住宅の性質に問題がないか。

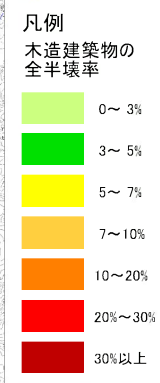


耐震性の判断には建築の専門知識が要求されます。目立った症状がなくても、耐震診断を受けることが重要です。次のような項目に心当たりがある住宅は、特に要注意です。

- ドアあるいは窓を閉めるとき、柱と建具の間に著しい程長の三角形の隙間がある。
- ドアあるいは窓の建付けが悪く、建具の閉りが変形のために思うようにいかない。
- 窓の敷居が著しく水平を欠いている。
- 建物の壁面が傾斜しているのが、肉眼でもわかる。
- 床面の傾斜が著しく感じられる。
- シロアリの成虫(4枚羽根のついたしろアリ)が浴室から出てくる。
- 屋根の棟あるいは軒先が歪んでいる。
- モルタル塗壁に長いひび割れが入っている。
- 土間や浴室の土台の一部が老朽化している(陥っているなど)。



大崎市



<<問い合わせ先>>
 栗原市 建設部 建築住宅課
 TEL 0228-22-1153
 FAX 0228-22-0313

※このマップにおいて、市の境界部等で、計算上、色の塗られていない箇所があります。

この地図は、国土地理院長の承諾を得て、同院発行の数値地図50000(地図画像)及び数値地図25000(地図画像)を複製したものである。(承認番号 平99第 第990号)

